

佐渡市立両津病院 看護師クリニカルラダー(JNA)

レベル		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味を踏まえニーズをとらえる
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> □助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
実践例		<ul style="list-style-type: none"> ■助言を受けながら、診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集をする。たとえば、身体的側面については、助言を受けながら、患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察をし、基本的なフィジカルアセスメントを行う。スピリチュアルな側面については、治療についての考え方や情報を得る。 ■患者の状況から緊急度をとらえ、助言を受けながら緊急度に応じた観察をし、必要な情報を得る。たとえば、致死的不整脈や意識障害など生命の危機に関わる緊急性のある異常を発見できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自立して入院時から診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集をする。たとえば、身体的側面については、自立して、患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察をし、フィジカルアセスメントを行う。 ■診療記録など決められた枠組みに沿った内容について、多職種から情報収集を行う。 ■自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面を関連づけて患者の課題をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行う。たとえば、生活習慣など相手の生活を細部までとらえ、患者・家族(または患者を取り巻く人々)の希望も踏まえて、入院生活や退院調整に必要な情報を得ることができる。 ■正確なフィジカルアセスメントができる。たとえば、患者から症状の訴えがあった場合、原因として患者の体内で起こっている現象を考えたことができる。 ■情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえ、優先度の高いニーズをとらえる。 ■患者の状態に合わせて、標準的な観察項目に関する観察ができるだけでなく、各項目について観察する意味と観察項目間の関連を理解し、必要に応じて観察項目を追加したり、異常値の出現時に対処ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の疾患の予後や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、必要な情報を収集する。たとえば、患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者の家庭での役割、仕事の予定、疾患に対する思い等を意図的に焦点化して確認したうえで、収集した情報を統合してニーズをとらえることができる。 ■正確なフィジカルアセスメントだけでなく、患者の状況の原因までを予測しとらえることができる。たとえば、患者から症状の訴えがあった場合、原因としてあらゆることを想定し患者の体内で起こっている現状を考えながら、意図的に観察し、アセスメントできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■複眼的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる。 ■患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集して患者と家族(または患者を取り巻く人々)の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズをとらえる。 ■地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設等に働きかけることで解決を図る。
ケアする力		【レベル毎の目標】	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
【行動目標】		<ul style="list-style-type: none"> □指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
実践例		<ul style="list-style-type: none"> ■指導を受けながら、患者に対して手順に沿ったケアを実施する。たとえば、患者の状態に合わせて、助言を受けながら手順をもとに、説明を患者に行い、ケアを実施する。 ■患者に対して基本的な生活行動の援助を行う。重症患者や医療依存度の高い患者については、指導を受けて実践する。 ■基本的看護技術については、新人看護職員研修ガイドラインにおける、看護技術についての到達目標が達成できる。 ■急変時には、対応の場において、流れを把握し、指示を受けながらメモをとる、バイタルサインを確認するなど、できることを探して実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の既往歴、年齢、性別、社会的役割等を考慮して、標準的な看護計画を追加・変更し、自立してケアを実践する。重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践する。 ■患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得て、状況に応じた援助を実践する。観察して患者の状態を把握し、必要な応じて時間調整や疼痛コントロールなどを実践してからケアを行うことができる。 ■患者に対して指導をする場合、一般的な内容について、網羅して説明することができる。 ■急変時には、指示されたケアを責任をもって実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の個性に合わせて適切なケアを行う。たとえば、患者の入院前からの習慣について情報を考慮した生活行動援助を計画・実践する。 ■患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができる。 ■患者のニーズを的確にとらえられることで、複数の患者を受け持つ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる。 ■急変時には落ち着いて対応し、家族(または患者を取り巻く人々)等に配慮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の顕在的・潜在的ニーズに応えるために幅広い選択肢からの提案やケアの実践ができる。たとえば、患者に対し、疾患の予後と治療による影響と患者の生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案・実践する。 ■患者に対して指導をする場合、予測的な視野をもちながら、患者の反応に応じて段階的に説明することができる。患者の生活の中で起こりうる課題や症状について予測した上で、患者の思いや理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明する。その際、患者の性格習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提供する。 ■急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族(または患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをすることができる。 ■コミュニケーションにたけており、各患者に最適な対応ができる。 ■ケアの開発のための努力を継続して行う。 ■患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い、患者の尊厳を尊重し、患者のQOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる。たとえば、患者の疾患の予後と治療による影響により、患者の希望に沿った生活が困難な状況であっても、患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、新たな生活の可能性を広げるケアを提案する。 ■急変時には、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測しながら、患者及び家族(または患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる。

レベル	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
協働する力	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>関係者と情報共有ができる</p> <p>【行動目標】</p> <p>□助言を受けながらケアの受け手えを看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる</p> <p>□助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる</p> <p>□助言を受けながらケアに必要なと判断した情報を関係者から収集することができる</p> <p>□ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる</p> <p>□連絡・報告・相談ができる</p>	<p>看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる</p> <p>□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる</p> <p>□関係者と密にコミュニケーションをとることができる</p> <p>□看護の展開に必要な関係者を特定できる</p> <p>□看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる</p>	<p>ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる</p> <p>□ケアの受け手の個人的なニーズに対応するために、その関係者と協力しながら多職種連携を進めていくことができる</p> <p>□ケアの受け手とケアについて意見交換できる</p> <p>□積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる</p>	<p>ケアの受け手を取り巻く多職場に力を調整し連携できる</p> <p>□ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる</p> <p>□多職種の連携が機能するように調整できる</p> <p>□多職種のの活力を維持・向上させる関わりができる</p>	<p>ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす</p> <p>□複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる</p> <p>□多職種連帯が十分に機能するよう、その調整役割を担うことができる</p> <p>□関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる</p> <p>□目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる</p>
実践例	<p>■看護チームの一員であることを理解し、日々の患者へのケアを、他の看護師と協働して行う。常に自らのもつ情報を他の看護師に連絡し、患者の状態について報告し、判断できないことや経験のない処置やケアについて相談する。</p> <p>■多職種(医師、看護師、専門・認定看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、ケースワーカー、緩和ケアチーム、RSTチームなど)の役割を理解する。</p> <p>■カンファレンスに参加し、発言することで、自らのもつ情報を提供して関係者と共有する。</p>	<p>■患者に関わる多職種の役割を理解し、必要に応じて多職種の必要性に気づく。</p> <p>■患者の疾患の現状、検査結果、治療方針を担当医と確認し、患者の訴えや受け止めている思いを医師に伝える。看護チーム情報共有し、看護の方針を確認できる。</p> <p>■カンファレンスに参加し、積極的に発言することで、患者の思いや希望等の必要な情報を関係と共有する。</p>	<p>■患者の個人的なニーズに対応するため、関係者と協力し他職種連携を進める。患者の現在ある状況をとらえ、必要な職種がわかり、協力をもとめることができる。たとえば、退院支援の際、患者の生活を思い浮かべて、キーパーソンは誰か、どのような条件であれば退院できるにか、どの職種と調整ができる。</p> <p>■入院から、退院後の生活場所(在宅、回復期リハビリ病棟、高齢者介護施設等)について、多職種に提案する等の調整を行う。</p> <p>■協働する看護師に積極的に情報共有する。</p> <p>治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる。定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催された。患者や家族(また患者を取り巻く人々)が治療に協力できる工夫を行うために、カンファレンスに参加できるように働きかける。</p>	<p>■診療報酬などの社会制度も理解した上での調整ができる。</p> <p>■多職種との連携において、病院内だけでなく病外との調整ができる。たとえば、退院支援において、患者の退院後の生活を予測した上で、訪問看護の調整について、窓口と方法等を理解していたり、多様化する退院後の生活の場について、主体的にケアマネジャーと調整する。</p> <p>■多職種間の連携においては、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化し、患者に関わることできるように連携を促進する。カンファレンスにおいては、連携が促進されるようファシリテートすることができる。</p> <p>■患者に対して起こりうる課題を予測して専門・認定看護師なおの専門家の関りを提案し調整することができる。</p>	<p>■連携にあたっては全体を俯瞰し、まわりを動かすことができる。多職種を中心に巻き込み、各職種が役割を効果的に発揮できるように、各職種の役割を明確化し、チームの目標を共有し、結束して関わることのできるような連携を促進する。カンファレンスにおいては、中心となって各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる。</p> <p>■看護チーム内では、看護師が役割を効果的に発揮できるよう調整を行なう。</p> <p>■多職種との連携において、病院内だけでなく病外との複雑な調整ができる。</p> <p>■自施設に不足している機能に気づき、補完するための資源を活用できる。</p>
意思決定を支える力	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る</p> <p>【行動目標】</p> <p>□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる</p>	<p>ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる</p> <p>□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる</p> <p>□確認したい思いや考え、希望をケアに関連付けることができる</p>	<p>ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる</p> <p>□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる</p> <p>□ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる</p> <p>□ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる</p>	<p>ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる</p> <p>□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる</p>	<p>複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる</p> <p>□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる</p> <p>□法のおよび文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる</p>
実践例	<p>■助言を受けながら、患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望を知る。たとえば、患者や家族(または患者を取り巻く人々)の不安を推察し、思いを聞くことに努める必要があると気づき、思いの表出を促すことはできなくとも、頻回に訪室して患者と家族(または患者を取り巻く人々)に寄り添うことができる。</p> <p>■患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望を多職種に伝える。たとえば、患者と家族(または患者を取り巻く人々)から希望を聞き、その希望をリーダー看護師等に伝えることができる。</p>	<p>■患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望を意図的に確認する。たとえば、患者と家族(または患者を取り巻く人々)の背景や理由についても確認することができる。</p> <p>■患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望をケアに関連付け、ケアに反映させることができる。</p> <p>■説明に対する患者や家族(または患者を取り巻く人々)の認識と医療者の認識とのずれに気づき、追加の説明等調整する。</p>	<p>■患者や家族(または患者を取り巻く人々)の意思決定に必要な情報を提供する。たとえば、療養の場や治療・検査について、選択枝の特徴が説明でき、患者や家族(または患者を取り巻く人々)に提案するなどして意思決定を支える。</p> <p>■患者と家族(または患者を取り巻く人々)にとって、何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちを聞く。患者と家族(または患者を取り巻く人々)両者の意向が異なる場合においても、両者の思いを理解し、患者と家族(または患者を取り巻く人々)の現在ある状況を多職種に代弁することができる。</p> <p>■患者と家族(または患者を取り巻く人々)がそれぞれ個人の中に持つ複数の思いや気持ち、価値観に寄り添う。</p> <p>■患者の訴えを表面的に受け止めず、思い込みではない判断ができる。</p>	<p>■患者と家族(または患者を取り巻く人々)の気持ちを引き出したたり、意思決定プロセスを促進させることができる。患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わることを示すことで、意思決定プロセスを促進させる。</p> <p>■患者や家族(または患者を取り巻く人々)、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整する。</p> <p>■複雑な意思決定場面において、患者と家族(または患者を取り巻く人々)を尊重し寄り添い続けることができる。</p> <p>■患者と家族(または患者を取り巻く人々)の意思決定に関わるゆらぎに寄り添い支えることができる。</p>	<p>■患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定出来たり考えたりすることができるように積極的に踏み込んで関わるなかで、意図的に医療チームを動かし、意思決定プロセスを支援できる。</p> <p>■患者と家族(または患者を取り巻く人々)の思いは日々変化していることを念頭に、多角的な視点から患者と家族(または患者を取り巻く人々)を尊重し寄り添い続けることができる。</p> <p>■複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整できる。</p>